

勝ち星を量産している郡司浩平

大阪・関西万博協賛・名古屋競輪場開場75周年記念「金鯱賞争奪戦」は、3月1日～4日の日程で開催される。今シリーズは全日本選抜の直後ながら、郡司浩平、岩本俊介、新山響平のSS班3名が参戦。南関勢は他にも深谷知広、和田健太郎とそろっていて、ラインの総合力は他地区を大きくリードしている。だが、新山率いる北日本勢も黙ってはいないし、徹底先行で鳴らす地元の藤井侑吾も主導権奪取に闘志を燃やす。優勝のゆくえは果たして？

全日本選抜の結果で多少は評価が変わってくるかもしれないが、勢いが最もあるのは郡司浩平だ。今年は年頭から快調なペースで飛ばしていて、1月は立川記念を準Vでスタートすると、松阪記念、高松記念を連覇。2月奈良記



郡司浩平

念まで4場所走って早くも12勝をあげている。豊かなスピードを活かした自力攻撃は破壊力抜群だし、南関の自力型がいるときは番手戦もそつなくこなす。連係実績が豊富な岩本俊介、深谷知広の存在も心強い。優勝に最も近い存在とみて中心視した。深谷も今年

は順調にきている。2月静岡記念では、上がり11秒1の超速まくりを決めて地元記念Vをゲット。眞杉匠、新山響平、嘉永泰らを撃破した。当所は以前の地元でもある

ので気合も入る。1月和歌山記念を欠場した岩本だが、調子にまったく問題はない。1月松阪記念②①①③着、2月静岡記念②①①②着と素晴らしい成績だ。松阪、静岡ともに南関連係を奏功させての結果。こども南関勢がレースを支配ならV争いに加わる。

第2勢力は北日本勢。先陣を受け持つ新山を佐藤慎太郎、守澤太志が盛り立てるのでラインはしっかりしている。1月は和歌山記念、高松記念と決勝を外した新山ながら、2月静岡記念は準決で逃げ切り勝ち。更に調子を上げてくるようなら、南関勢にとっては手ごわい存在となる。レース巧者の佐藤、守澤の援護を盾に先手を奪えば、南関勢を撃破しても不思議ではない。

ていればSS班の自力型を苦境に陥れて、地元ファンに猛アピールするだろうが……。中部の追い込み型が不在なら、中近スジで村上博幸が藤井とタッグを組む。45歳のベテランながら差し脚に陰りはみられない。1月立川記念の二次予選では、藤井の逃げを差し切って中近ワンツーを決めた。藤井が先制なら浮上してくる。

名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名
谷二	静岡	81 期	97.50	S2	村上直久
賢治	徳島	81 期	97.62	S2	二藤元太
龍嗣	福岡	82 期	100.45	S2	棚橋勉
佳也	静岡	83 期	94.55	S2	佐伯翔
一郎	広島	84 期	94.48	S2	平原啓多
征	新潟	85 期	99.67	S2	柿澤大貴
圭一	神奈川	85 期	90.69	S2	松岡篤哉
志	徳島	85 期	97.22	S2	佐方良行
省司	青森	86 期	91.52	S2	猪狩祐樹
隆	兵庫	86 期	97.21	S2	石川裕二
市	愛知	87 期	93.75	S2	木村弘
成英	愛知	89 期	91.48	S2	笠松将太
達司	千葉	90 期	98.39	S2	山崎泰己
馬	福岡	90 期	100.56	S2	小酒大勇
也	愛知	91 期	101.85	S2	栗山俊介
之	宮城	92 期	101.14	S2	新納大輝
谷	千葉	92 期	104.52	S2	谷口明正
也	富山	92 期	94.18	S2	畑段嵐士
弘	佐賀	92 期	101.07	S2	尾形鉄馬
樹	埼玉	93 期	99.11	S2	大石崇晴
春	宮城	94 期	97.89	S2	格清洋介
伍	埼玉	95 期	103.77	S2	今村麟太郎

地元勢ではパワフルな先行で別線を圧倒している藤井侑吾に期待がかかる。1月立川記念では、連日先行して1②①着で優参を果たすと、決勝も山口拳を引き連れて主導権を握り、山口の優勝に貢献している。ただ、落車、骨折して全日本選拔を欠場となった佐藤と同じく地元のG1を欠場。体調には非常に不安が残る。戻っ

主導権争いが激化するようだと、十八番のまくりには素晴らしき破壊力がある松本貴治が怖い存在となる。最近ではG3開催で大活躍。昨年は11月防府記念、12月松山記念を連覇すると、1月和歌山記念は準Vと文句なしの成績だ。豪快な一撃が飛び出す場面も大いにありそう。

九州勢も伊藤旭、中本匠栄、山

金鯨賞争奪戦				グラ	
氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名
小松崎大地	福島	99 期	108.88	S2	土屋 聖
徳永哲人	熊本	100 期	106.32	S2	青井 隆
山本伸一	奈良	101 期	109.50	S2	山口 正
長尾拳太	岐阜	103 期	102.70	S2	大木 功
谷口遼平	三重	103 期	105.57	S2	吉本 和
隅田洋介	岡山	107 期	109.63	S2	藤原 大
池野健太	兵庫	109 期	103.78	S2	加藤 大
松本貴治	愛媛	111 期	113.27	S2	高原 大
小林泰正	群馬	113 期	110.27	S2	佐々木
福永大智	大阪	113 期	106.44	S2	木村 大
藤井侑吾	愛知	115 期	110.18	S2	吉田 大
伊藤旭	熊本	117 期	109.00	S2	高橋 大
吉田有希	茨城	119 期	104.12	S2	近藤 大
瀨瀬光翔	愛知	121 期	105.33	S2	坂本 大
金子真也	群馬	69 期	96.74	S2	高橋 大
澤田義和	兵庫	69 期	96.78	S2	安部 大
室井健一	徳島	69 期	95.95	S2	鈴木 大
伊藤正樹	愛知	71 期	93.41	S2	吉川 大
飯田辰哉	千葉	72 期	92.21	S2	山口 大
岩本和也	石川	76 期	98.42	S2	丸山 大
山内卓也	愛知	77 期	99.49	S2	佐藤 大
稲村好将	群馬	81 期	94.23	S2	相川 大

田英明とそろっている。あまり仕掛けは早くない伊藤ながらスピードは一級品。展開がもつれるようなら出番が巡ってくる。

小林泰正、武藤龍生の関東勢の動向にも注意したい。

第75周年記念			
登録地	期別	競走得点	級別
千葉	94 期	116.47	S1
神奈川	99 期	118.52	S1
青森	107 期	114.19	S1
岐阜	68 期	106.74	S1
福島	78 期	111.75	S1
岡山	79 期	103.29	S1
愛知	84 期	107.82	S1
京都	86 期	113.54	S1
千葉	87 期	110.27	S1
神奈川	89 期	103.57	S1
佐賀	89 期	113.29	S1
埼玉	91 期	108.58	S1
広島	91 期	105.30	S1
群馬	92 期	106.76	S1
京都	93 期	108.84	S2
千葉	95 期	107.00	S2
秋田	96 期	109.91	S2
静岡	96 期	115.96	S2
大阪	96 期	107.47	S2
徳島	96 期	106.21	S2
熊本	97 期	110.54	S2
埼玉	98 期	113.55	S2



岩本俊介



新山響平

開場 7 5 周年記念 金鯰賞争奪戦										グランパスカップ 出場予定選手										※2025年02月21日現在のデータです。									
級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点					
SS	岩本俊介	千葉	94 期	116.47	S1	小松崎大地	福島	99 期	108.88	S2	土屋裕二	静岡	81 期	97.50	S2	村上直久	神奈川	95 期	94.05	S2	田尾駿介	高知	111 期	105.43					
SS	郡司浩平	神奈川	99 期	118.52	S1	徳永哲人	熊本	100 期	106.32	S2	青井賢治	徳島	81 期	97.62	S2	二藤元太	静岡	95 期	98.30	S2	門田凌	愛媛	111 期	92.13					
SS	新山響平	青森	107 期	114.19	S1	山本伸一	奈良	101 期	109.50	S2	山口貴嗣	福岡	82 期	100.45	S2	棚橋勉	岡山	96 期	98.81	S2	島村匠	福岡	111 期	92.29					
S1	山口富生	岐阜	68 期	106.74	S1	長尾拳太	岐阜	103 期	102.70	S2	大木雅也	静岡	83 期	94.55	S2	佐伯翔	福島	97 期	97.78	S2	鈴木輝大	東京	113 期	97.85					
S1	佐藤慎太郎	福島	78 期	111.75	S1	谷口遼平	三重	103 期	105.57	S2	吉本哲郎	広島	84 期	94.48	S2	平原啓多	埼玉	97 期	95.96	S2	久樹克門	徳島	113 期	94.65					
S1	三宅達也	岡山	79 期	103.29	S1	隅田洋介	岡山	107 期	109.63	S2	藤原憲征	新潟	85 期	99.67	S2	柿澤大貴	長野	97 期	105.35	S2	曽我圭佑	熊本	113 期	95.19					
S1	笠松信幸	愛知	84 期	107.82	S1	池野健太	兵庫	109 期	103.78	S2	加藤圭一	神奈川	85 期	90.69	S2	松岡篤哉	岐阜	97 期	103.10	S2	荒木貴大	埼玉	115 期	93.00					
S1	村上博幸	京都	86 期	113.54	S1	松本貴治	愛媛	111 期	113.27	S2	高原仁志	徳島	85 期	97.22	S2	佐方良行	熊本	97 期	98.55	S2	山本修平	東京	115 期	96.29					
S1	和田健太郎	千葉	87 期	110.27	S1	小林泰正	群馬	113 期	110.27	S2	佐々木省司	青森	86 期	91.52	S2	猪狩祐樹	福島	99 期	98.25	S2	野蔭翔太	徳島	115 期	93.41					
S1	石塚孝幸	神奈川	89 期	103.57	S1	福永大智	大阪	113 期	106.44	S2	木村直隆	兵庫	86 期	97.21	S2	石川裕二	茨城	99 期	102.35	S2	脇本勇希	福井	115 期	101.68					
S1	山田英明	佐賀	89 期	113.29	S1	藤井侑吾	愛知	115 期	110.18	S2	吉田健市	愛知	87 期	93.75	S2	木村弘	青森	100 期	103.88	S2	坂本紘規	青森	117 期	98.67					
S1	宿口陽一	埼玉	91 期	108.58	S1	伊藤旭	熊本	117 期	109.00	S2	高橋成英	愛知	89 期	91.48	S2	笠松将太	埼玉	100 期	99.11	S2	原大智	宮城	117 期	96.76					
S1	大川龍二	広島	91 期	105.30	S1	吉田有希	茨城	119 期	104.12	S2	近藤隆司	千葉	90 期	98.39	S2	山崎泰己	岡山	101 期	96.58	S2	水森湧太	東京	117 期	90.03					
S1	木暮安由	群馬	92 期	106.76	S1	瀬瀬光翔	愛知	121 期	105.33	S2	坂本亮馬	福岡	90 期	100.56	S2	小酒大勇	宮崎	103 期	98.67	S2	村田瑞季	京都	117 期	95.76					
S1	山田久徳	京都	93 期	108.84	S2	金子真也	群馬	69 期	96.74	S2	高橋和也	愛知	91 期	101.85	S2	栗山俊介	奈良	103 期	98.33	S2	緒方将樹	熊本	117 期	102.11					
S1	近藤保	千葉	95 期	107.00	S2	澤田義和	兵庫	69 期	96.78	S2	安部貴之	宮城	92 期	101.14	S2	新納大輝	鹿児島	103 期	99.66	S2	堀江省吾	長野	119 期	102.52					
S1	守澤太志	秋田	96 期	109.91	S2	室井健一	徳島	69 期	95.95	S2	鈴木裕	千葉	92 期	104.52	S2	谷口明正	三重	103 期	94.22	S2	上杉嘉槻	福井	119 期	98.35					
S1	深谷知広	静岡	96 期	115.96	S2	伊藤正樹	愛知	71 期	93.41	S2	吉川起也	富山	92 期	94.18	S2	畑段嵐士	京都	105 期	103.00	S2	松本憲斗	熊本	119 期	97.72					
S1	岡崎智哉	大阪	96 期	107.47	S2	飯田辰哉	千葉	72 期	92.21	S2	山口貴弘	佐賀	92 期	101.07	S2	尾形鉄馬	宮城	107 期	102.61	S2	昼田達哉	岡山	121 期	100.96					
S1	久米良	徳島	96 期	106.21	S2	岩本和也	石川	76 期	98.42	S2	丸山直樹	埼玉	93 期	99.11	S2	大石崇晴	大阪	109 期	101.45	S2	青木瑞樹	岡山	123 期	94.97					
S1	中本匠采	熊本	97 期	110.54	S2	山内卓也	愛知	77 期	99.49	S2	佐藤雅春	宮城	94 期	97.89	S2	格清洋介	静岡	111 期	103.80										
S1	武藤龍生	埼玉	98 期	113.55	S2	稲村好将	群馬	81 期	94.23	S2	相川永伍	埼玉	95 期	103.77	S2	今村麟太郎	高知	111 期	99.50										

隅田 洋介（岡山/107期）

2月奈良記念では1②⑤②着と3連対。最近
はほとんど自力を出していないが、直近4カ月
の3連対率は約 77%と高く、鋭い差し脚を発
揮して成績をまとめている。上位戦でも軽視は
禁物だ。



福永 大智 (大阪/113期)

昨年は最終戦の 12 月川崎で落車し、次場
 所を欠場。復帰2場所目の1月大宮は 7③着
 の勝ち上がりながら、決勝は直線で鋭く伸びて
 優勝を手にした。自力勝負ではなかったもの
 の、これで波に乗るか。



堀江 省吾 (長野/119期)

このところ予選を乗り切れない場所が目立っていたが、2月静岡記念では、競走内容は今ひとつも準決にコマを進めた。同格相手のレースは、人気の有無にかかわらず連の対象から外せない。



地元地区推奨選手

俺の出番だ!!



翔 瀧 瀨

(愛知/121期)

ヤンググランプリ2024のチャンピオン。今年初戦の1月和歌山記念では1⑧①①着と3勝をあげていて、F1戦よりもG3開催の方が成績がいい。目標にしてきた地元記念で大暴れるるか。

笠松 信幸

(愛知/84期)

2月岐阜の準決では、谷口遼の逃げに食い下って中部ワンツーを決めるなど、相変わらずしぶとさを発揮している。今年初のG3参戦が地元記念なら燃える材料には事欠かない。

[illegible]